

高 1 ・ 高 2

アグネス・立命館・幼児教育コースのみなさんへ

2017 年 度 3 学 期 朝 読 書 の ス タ ー ト に あ た っ て

平 安 女 学 院 高 等 学 校 国 語 科

文化・文芸

✉bunka@asahi.com

月曜～土曜掲載

- ①『漫画 君たちはどう生きるか』(マガジンハウス)。漫画は羽賀翔一
- ②『君たちはどう生きるか』。1937年に刊行され、82年に岩波文庫に。その後ロングセラーに



「君たちはどう生きるか」

『漫画 君たちはどう生きるか』が大ヒットしている。15歳の少年が叔父さんとの対話を通じて、貧困や暴力という社会に横たわる大きな問題と向き合いながら成長する物語だ。原作は雑誌「世界」の初代編集長吉野源三郎。なぜ80年前に語られた「生き方」に注目が集まるのか、読み解いてもらった。(裏面)

ここに注目

古典の力と現代の感性 融合

発行元のマガジンハウスによると、12月100万部突破。8月刊行の漫画版は95万部、同時に発売された原作の新装版は24万部に達する。古典の力が、現代の漫画家や編集者らの感性と組み合わせられたため、時代を超えたのだろう。その一方で、時代を感じさせられるのも事実。漫画の主な登場人物に

コペル君の母親以外の女性がいらないのだ。社会や歴史、宇宙の多様さや壮犬さを語るのに、原作には友人の姉らが出てくるが、それでも男の子たちの物語に映る。原作の時代とは社会のありようは変わった。今、「君たち」という呼び

かけに性別は関係なく、読者はコペル君を「私」として読む。いつの時代も問題は山積だが、コペル君のような小さな個人の力の積み重ねによって社会は変わるし、変わってきた。タイトルからは、そんなことも考えさせられる。(高久潤、高重治香

マンガ

人生100年 中高年に刺さる

社会学者
古市憲寿



癖がない絵で、漫画を読み慣れていない中高年もすんなり読める。人物の描き方も今っぽい。旧制中学の生徒は丸刈りだったはずですがそうしていないし、主人公も丸めがねの天才少年風です。

タイトルにも中高年を中心に売れ始めた理由があると思う。「人生100年時代」と語られる今、「どう生きるか」は重要な問題です。学生時代は自分探し、会社では企業戦士として戦い、さて定年。不安なところどころこのタイトルが刺さったのではないかと。中高年の気分が若いのが今の日本です。僕は今回、原作を初めて読みました。個人の尊重、知識や社会の

進歩への信頼という近代主義の原理がはつきり書かれ、吉野が、戦後も通じて日本をどんな社会にしたかったのかがよくわかる。「エリート予備軍」のコペル君が叔父さんから学ぶ原作のスタイルは説教くさい感じを受けるが、漫画はそこでもない。最近「近代主義」や「リベラル」の評判がよくないですが、実は中身よりも語り口の問題なのかもしれません。

ライトな表現の「問題集」

高校図書館司書
成田康子



勤務先の高校の図書館用に漫画版を買いました。いつも貸し出しの中で、漫画をきっかけに原作の文庫を読む生徒もいます。

ストリートな題名が今の高校生に受け入れられるのか、半信半疑

でした。どう生きるかよりも、どう大学に入るかを大切にしているように見えます。友人同士でも自分をさらけ出したりありません。だからこそ、この本が話のきりかけになればと考えました。漫画版のライトな感じは取っつきやすかったようです。生徒の表現を借りれば、原作に比べて漫画版は

「君たちはどう生きるか」「くらり」の軽さ。一つ一つのエピソードが

深刻になりすぎないよう適度に和らげて表現されていますね。

原作も漫画も、節目節目でコペル君と叔父さんとの対話や手紙が入るので、作者が投げかける問いがわかりやすく示されます。ある生徒はこの本を「問題集」にたとえました。生き方の「正解」を知っていてもその通り行動できず、悩むコペル君に、自分を重ねながら読んでみました。

貧困・偏狭 いまに通じる

文芸評論家
斎藤美奈子



メッセージは明快。人間はちっぽけだけれど、世界は広い。特に原作には、教養のための教養主義とは違う、大正モダンズムの良質な部分を受け継がれています。

中学生同士の友情を描くシンプ

ルな筋書きですが、話題は多岐にわたります。コペル君と叔父さんはニュートンの万有引力からナポレオンの歴史物語、そしてガンダムの伝像のことまで語り合っ

た。貧困にあえぐ同級生の生活や、偏狭な愛国心を振りかざす先輩の暴力に、「ヘタレ」な男の子が向き合っていく。人生論の本というより、社会の仕組みを教えてくれるテキストです。

もし「総中流意識」が当然だった1980年代に漫画化されたら、今ほど反響はなかったのでは。貧困は遠い世界と感じられたように思います。

とどろくは、コペル君が生き残った30年代と現代の空気に通じるものがあるのかもしれない。見落とされがちですが、コペル君は、先の大戦での学徒出陣で命を落としてく世代なのです。

読書の学校

別冊 NHK 100分 de 名著

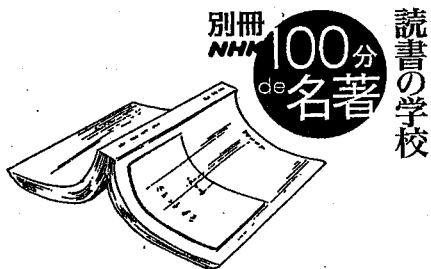
池上彰 特別授業

Ikegami Akira

君たちは どう生きる

*吉野源三郎著
一九三七年初版刊行

僕たちは、
自分で自分を
決める力を
もっている。
誤りを
犯すこともある。
しかし、誤りから
立ち直すことも
出来るのだ。



よい本との
出会いは、
人生の宝物
です。

豊かさとは、友だちとは、
歴史とは、真の英雄とは――
戦争の足音が迫りくる80年
前、著者・吉野源三郎が投
げかけた永遠のテーマを、
池上彰とともに考える。



※このテーマの放送は
ありません。

定価：[本体800円]+税



9784144072260



1929490008008

読書の学校は、
「NHK100分de名著」のコンセ
プトはそのままに、人気の著者
が自ら名著を選んで中学校・高
校に向いて特別授業を行う、
NHK出版独自の新シリーズです。
今回は、ジャーナリストの池上
彰さんが、2017年7月7日に東
京の武蔵高等学校中学校を訪れ
ました。

ISBN978-4-14-407226-0

C9490 ￥800E

ISBN 64072-26

Printed in Japan

NHK出版

池上彰 NHK 100分 de 名著 読書の学校 特別授業 in 武蔵高等学校中学校

はじめに——いま、君たちに一番に読んでほしい本

よい本との出会いは、人生の宝物です。知識への扉を開いてくれるだけでなく、本を読むことで物語の世界に旅したり、歴史上の人物の波瀾万丈をいきいきと追体験したりすることもできます。本を読まない人が増えたと言われますが、そういう話を聞くたびに残念な気持ちになります。

一冊の本が、ときに心の支えとなり、あるいは道しるべとなって、人生を大きく変えることもあり得ます。そのときは気づかなくても、豊かな読書体験は、悩んだり迷ったりしたときに効いてくるものです。

書店や図書館には、一生かかっても読みきれないほどの本が並んでいます。いま、あなたに読んでほしい本を、そのなかから一冊だけ挙げるとしたら——。そう考えて選んだのが「君たちはどう生きるか」です。

この作品が刊行されたのは、一九三七年（昭和十二年）。第二次世界大戦が始まる二年前、いまか

らちようど八十年前のことです。作者の名は、吉野源三郎（一八九九—一九八一）。東京帝国大学

（現・東京大学）で哲学を修め、戦前・戦後を通じて編集者として活躍した人物です。

「君たちはどう生きるか」は、もともと「日本少国民文庫」全十六巻シリーズの一冊として書かれたもので、作者はこのシリーズの編集主任も務めていました。その後、岩波書店に入社して、岩波新書を創刊。戦後は雑誌「世界」初代編集長を務め、岩波少年文庫の創設にも尽力しました。「世界」に寄稿していた学者・知識人と共に市民団体「平和問題談話会」を結成し、反戦運動にも取り組んでいます。

「君たちはどう生きるか」は、こうした活動の、いわば原点とも言える作品です。日本少国民文庫シリーズの配本が始まったのは、一九三五年。その四年前、日本は満州事変をきっかけとして、アジア大陸に侵攻をはじめます。日本国内には、戦争へと突き進む重苦しい空気が広がっていました。軍国主義に異を唱える人はもちろん、リベラルな考え方の人も弾圧され、作者自身も治安維持法違反で逮捕されるといふ経験をしています。

そして一九三七年、「君たちはどう生きるか」の刊行とほぼ時を同じくして、中国大陸で盧溝橋事件が起き、日本は以後八年にわたる日中戦争の泥沼へと入っていきます。ヨーロッパではドイツにヒ

トラージが、イタリアにムッソリーニが登場し、人々の暮らしに影を落としていました。

そんな時代だからこそ、次代を担う子どもたちには、ヒューマニズムの精神にもとづいて自分の頭で考えることの大切さを伝えたい。すでに言論の自由も、出版の自由もいちじるしく制限されていたが、偏狭な国粹主義から子どもたちを守らなければという強い思いから、この本は生まれたのでした。

戦前に書かれたにもかかわらず、この作品は戦後も売れ続けます。むしろ戦後のほうがよく売れたのではないのでしょうか。戦時を知らない多くの子どもたちが、この本を手にとり、引き込まれていきました。かくいう私も、その一人です。

私がこの本と出合ったのは、小学生のとき。珍しく父が私に買ってきた本でした。当初は「親に読めと言われた本なんて」と反発していましたが、読んでみると面白く、気がつくまで夢中になっていました。

ひと言で言うなら、これは子どもたちに向けた哲学書であり、道徳の書。人として本当に大切なことは何か、自分はどう生きればいいのか。楽しく読み進めながら自然と自分で考えられるよう、いくつもの仕掛けが秀逸にちりばめられています。

物語の主人公は、十五歳のコペル君。彼は学校での出来事や、親戚の若い叔父さんとの対話を通して、自分は何を大切にし、どう生きていけばいいかという問いと向き合います。

一方、叔父さんは、コペル君に伝えきれなかったことや、考えてほしいことを一冊のノートに書きためていきます。ときにはコペルニクスの地動説やニュートンのリンゴの話を交えながら、またあるときは貧困の問題を掘り下げながら、コペル君や読者にたくさんの、考えるヒントをくれます。哲学的、道徳的な話ばかりでなく、このノートを読めば、ガンダーラの仏像のエピソードから異文化を受容することの大切さを、また、ナポレオンの人生から歴史の見方を学ぶこともできます。

大人になって読み返しても、そのたびに新たな発見がある「君たちはどう生きるか」という作品を、今回は現代のコペル君世代のみなさんと一緒に読んでみました。

参加してくれたのは、私立の武蔵高等学校中学校の生徒。この作品を題材に特別授業を行い、彼らが読んで感じたこと、考えたこと、あるいは疑問に思ったことを入り口として、私の考えや、私なりの、考えるヒントをお話ししました。それをもとに、作品からの抜粋や解説を加えながらまとめたのが本書です。

ドイツの哲学者、シヨウペンハウエルは著書「読書について」に、こう記しています。

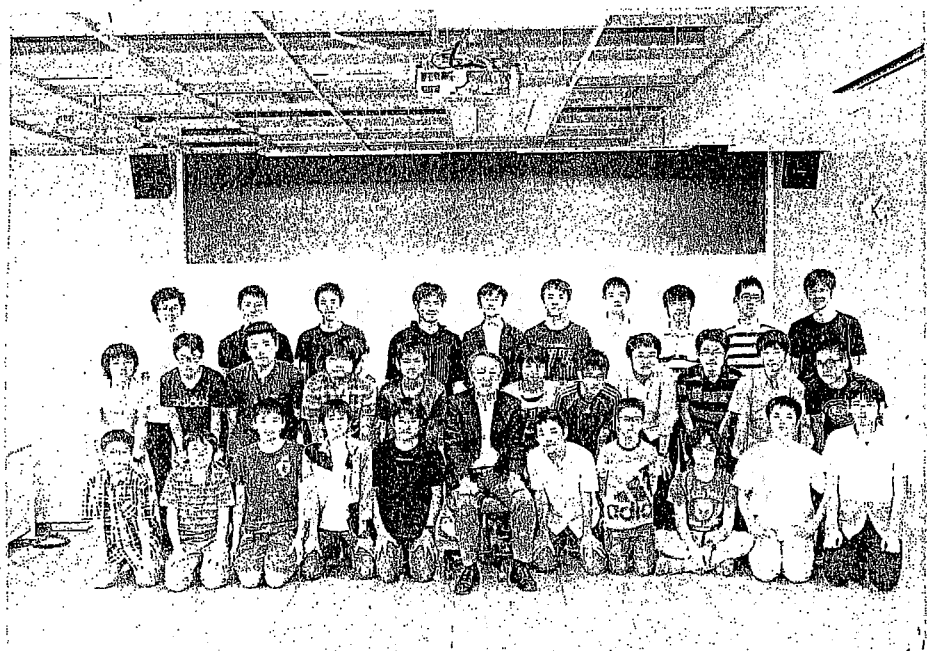
「読書は、他人にもものを考えてもらうことである。本を読む我々は、他人の考えた過程を反復的にたどるにすぎない」(岩波文庫、斎藤忍随訳)

つまり本は、ただ読むだけではダメ、ということですよ。何より大切なことは、読んだうえで、自分なりに考えてみることに。本書をきっかけとして、ぜひ原書の「君たちはどう生きるか」を読んで、みなさんも考えてみてください。

みて下さい。

池上 彰

『漫画 君たちはどう生きるか』



2017年7月7日、武蔵高等学校中学校にて。生徒たち31名と

特別授業を受けて——生徒たちの感想

生徒 A

私は今回の特別授業を受けて本の面白さを改めて感じた。一冊の本でもさまざまな楽しみ方があること、そして異なる視点から読めば、一冊の本でも無限に楽しむことができることを知り、とても嬉しく思った。今回「本」への考え方が変わったことを機に、今までに読んだ本を違う視点から読み返したり、これから読む本もいろいろなことを考えながら読もうと思った。

生徒 B

とても記憶に残っている言葉として、池上さんがツイッターを「やらなくて正解です」と言われた、というものがありました。私は最近ツイッターをする

ことが増えていたので意識的に減らしてみたら、画面を見ているよりは比較的新しい発見があり、有意義な時間となっていることを実感しています。景色などを見て、新しい発見をすることが、長く生きた感覚になれる方法なのでしょうか。

生徒 C

私は授業を受けたあと、広い視野を持ち、横に長い知識を持つ「人間」が立派な人間だと考えるようになった。なぜなら、広い視野を持つていけば、普段あたりまえのことにまで目を向けることができ、横に長い知識があれば、一部を深く掘り下げるときも楽になるからだ。

生徒 D

私は授業中、とても悩んでいました。なぜ事前に準備をしておかなかったのかなどと後悔しました。今回の授業は、受けるのではなく参加する、自分から考え動かなければならないものでした。感想というか反省になってしまいましたが、よい経験になりました。

生徒 E

今回、僕は一回も発言できなかったことを後悔しています。まず僕はもう少し積極的になろうと思います。

生徒 F

本の最後に筆者は「君たちはどう生きるか」とズバリと問いかけてます。「君たちはどう生きるべきか」と決まりきった答えを求めるではありません。授業で私は、この点について発言しました。」という生

生徒 G

池上さんが「省線電車」って何だろうと問うたことが印象に残っています。いつもは、本を読んでいる間からわからない言葉が出てきても、その意味など考えてきたらすぐに調べて知識として定着させる。あたりまえのことかもしれませんが、意識して確認することが大事だと思いました。

生徒 H

この本でコペル君は、自分で感じたことについて、じっくりと考え、おじさんに助言をもらおうと、さらにそこから考えてノートにまとめている。僕はわからないとすぐ他人に尋ねたり、グーグルで調べたり、ニュースなどの解説に頼ってしまうが、まず自分で考え、それから他のもので情報を得て、さらにじっくり考えてまとめてみたいと思った。

生徒 I

授業を受け、ガンダーラの仏像が東西文化の融合によって作られた一方で、なぜ民族間の対立により戦争が勃発するのかわかっていた。一つは、一神教が台頭し、十字軍のように多宗教、多民族を排他的に扱い、民族ごとの結束力が強まったから。一つは、第二次世界大戦が終結し、列強の支配を受けていた国々が独立して逆に民族同士が戦闘しやすい状

況へと変化したからだと思う。

生徒 J

僕は今後の世界情勢が不安定になっただとしても、太平洋戦争時のように世間に流されるのではなく、一人一人がきちんと理にかなっているか考えて行動することが重要だと思った。

生徒 K

僕は今回の授業を通して一度読んだ本について考え直し、自分なりの意見を再び持つことができた。また、他の人から貴重な意見を得ることができたことを本心にうれしく思っており、仲間と意見を交換することの大切さを知った。

生徒 L

「自分はどう生きるか」を考えるうえで、他の人の意見がとても重要だということを知った。授業のなかで感想を発表し合っているとき、同じシーンに対し

生徒 M

て、みな着目する点の違い、考えることもそれぞれであることに気づいた。とくにナポレオンから何が言えるかという話題で、肯定的な意見と否定的な意見の両方が飛び交った。しかし、すべての意見のなかから、作者の言いたかったことを読み解くヒントが得られ、自分で読むのとは違う物語の面白さに気づくことができた。

僕が今回の授業を通して思ったことは、たった一つの本をただ読むのと、一文一文深く考えながら読むのでは大きな違いがあることです。僕が読んだときはただ読むだけでしたが、友だちなどこの本について考え、話すと何時間でも語り合うことができました。それほど筆者のこの本に対する思いが強いということも知りました。

生徒 N

縦のつながりの人より斜めのつながりを大事にしたほうがよいと聞いたのをよく覚えています。会社なら直属の上司より他の部の人のほうがいろいろなことを教えてくれるということです。やはり人間は、大人になるとプライドが大事になり、素直に目下の者の面倒を見てあげたり、仕事のうまいやり方を教えてあげることができなくなってしまうのかと思いました。

生徒 O

僕たちは「議論」において大切なことを教わった。それは定義をしっかりと決めることだ。おのおのが思い描いている言葉の定義が異なるのでは議論を進めることはできない。わかりきっていることだが、意外に注意している人は少ない。